

リハビリテーション医学

【Rehabilitation Medicine】

担当責任者 教授（リハビリテーション医学） 佐伯 覚

ねらい

リハビリテーション医学は、疾病の診断と治療、疾病により生じた障害の診断と治療（訓練、指導、調整などを含む）、社会的・心理的再適応を促し、家庭復帰、社会復帰、職場復帰を直接取り扱う臨床医学である。障害者や高齢者で頻度の高い疾患の診察、治療、さらにこれらの疾患により生じた障害の診断と治療計画立案を学び、臨床的立場から産業医学や高齢者医療における医師の役割を理解する。

学修目標

1. リハビリテーション医学で頻度の高い疾患の診断と治療方法を理解する。（Ⅱ-6）
2. 障害の概念（機能障害、活動制限、参加制約）とその診断方法を学ぶ。（Ⅱ-6, Ⅱ-12, Ⅳ-8）
3. リハビリテーション医学に特有な治療方法（理学療法、作業療法、補装具、言語聴覚療法、社会・心理的再適応など）、リハビリテーションにおける感染症対策を理解する。（Ⅱ-6）
4. 障害者の職場復帰・治療と就労の両立支援のプロセスを理解する。（Ⅱ-6, Ⅲ-1, Ⅲ-2, Ⅳ-9, Ⅳ-10）
5. 多職種のスタッフが参加するチームアプローチを理解する。（Ⅰ-5, Ⅱ-6, Ⅳ-8, Ⅳ-9, Ⅵ-3, Ⅵ-5）

事前事後学習の方法

1. シラバスに記載されている授業項目について、教科書などで事前に予習しておくこと。
2. 配布された講義資料を熟読して講義内容の復習をすること。

成績評価方法・基準

1. 小テスト(10%)、テスト(90%)の結果を基に総合的に評価する。
2. 100点満点換算で、A、B、C、D、Fの5段階とする。

○教科書

上田敏監修「標準リハビリテーション医学第3版」(医学書院)

○参考書

江藤文夫・里宇明元監修「最新リハビリテーション医学第3版」(医歯薬出版)

講義:2201講義室

| 年月日 | 曜日 | 時限 | 授業項目(内容) | コアカリ項目 | | | 担当者 |
|--------|----|----|-------------------------|--------|-----|-----|-----------|
| | | | | 大項目 | 中項目 | 小項目 | |
| R3.4.1 | 木 | Ⅲ | リハビリ医学概論・診断学 | F | 2 | 11 | 佐伯 覚 |
| 4.8 | 〃 | 〃 | 補装具(切断リハビリを含む) | 〃 | 〃 | 〃 | 越智 光宏 |
| 4.15 | 〃 | 〃 | 障害評価 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 4.22 | 〃 | 〃 | リハビリ治療学(両立支援を含む) / 小テスト | 〃 | 〃 | 〃 | 杉本 香苗 |
| 5.6 | 〃 | 〃 | 脳卒中 / 小テスト | D | 〃 | 4 | 松嶋 康之 |
| 5.13 | 〃 | 〃 | 脊髄損傷 | 〃 | 4 | 〃 | 橘 智弘(学外) |
| 5.20 | 〃 | 〃 | 高次脳機能障害 | 〃 | 2 | 〃 | 岡崎 哲也(学外) |
| 5.27 | 〃 | 〃 | 脊椎・骨関節疾患 / 小テスト | 〃 | 4 | 〃 | 森山 利幸 |
| 6.3 | 〃 | 〃 | 摂食・嚥下障害 | F | 1 | 26 | 松嶋 康之 |
| 6.17 | 〃 | 〃 | 神経筋疾患 | D | 2 | 4 | 蜂須賀 明子 |
| 6.24 | 〃 | 〃 | 神経変性疾患 / 小テスト | 〃 | 〃 | 〃 | 徳永 美月 |
| 7.1 | 〃 | 〃 | 内部障害(がんのリハビリを含む) | 〃 | 6 | 〃 | 伊藤 英明 |
| 7.8 | 〃 | 〃 | 地域リハビリと介護予防 | B | 〃 | (2) | 梅津 祐一(学外) |
| 7.15 | 〃 | 〃 | 小児疾患 / 小テスト | D | 2 | 4 | 松尾 圭介(学外) |